

ツネログ #10

2025年6月号

(右は南米サッカー連盟のAlejandro Domínguez会長)

皆さん、こんにちは。

パラグアイのアスンシオンで開催された国際サッカー連盟(FIFA)総会に出席してきました。今回は年間の活動報告や財務状況の報告、予算の承認などがメインでしたが、総会の前後に各国、各地域の協会トップといろいろな話ことができました。パラグアイサッカー協会(APF)とはパートナーシップ協定を再締結し、各年代代表チーム、女子サッカー、フットサル、ビーチサッカーの親善試合および交流や審判交流プログラムなどを通して、関係性をさらに強化していくことになります。

またSAMURAI BLUE(日本代表)がFIFAワールドカップ26出場を決めたことで、(強化試合の)マッチメイクに関する交渉の場にもなりました。森保一監督からリクエストされているのは強い相手。これまでなら軽く受け流されていたかもしれない強豪国からも「ぜひやろう」と前向きな反応をいただいております。日本代表チームのステータスが上がっていることをあらためて実感した思いです。

総会ではジャンニ・インファンティーノ会長の到着が遅れたことがニュースになりました。サウジアラビアでアメリカのドナルド・トランプ大統領との会談などがあった影響で朝9時半スタートの予定が前日に10時半に変更され、当日になってさらに2時間後ろ倒しになりました。インファンティーノ会長はあいさつで謝罪するとともに「今年はクラブワールドカップがアメリカで、来年はアメリカ、カナダ、メキシコ共催でワールドカップがあり、34年にはサウジアラビアでも行われる。重要な話し合いになるため、皆さんの代表として行かなければならなかった」と理解を求めました。いろんなことがあった総会でしたが、

手にできた収穫も少なくなく、40時間掛けて移動した甲斐があったなと思っています。

FIFA総会の前には、サウジアラビアのジッダでアジアサッカー連盟(AFC)の競技会委員会がありました。今季のAFCチャンピオンズリーグエリート(ACLE)において途中撤退した山東泰山(中国)の試合が全て取り消しになったことで、ヴィッセル神戸も順位、成績で影響を受けました。そのレギュレーションについても話し合いが持たれ、アジア全体の発展を考えるという観点からわれわれの意見も述べています。そして同地で行われたACLEの決勝戦を観戦しました。準優勝の川崎フロンターレは完全アウェイの状況下で非常に良く戦ったと思います。

FIFA総会から帰国後はWEリーグのアウォーズに出席しました。4年目となった今季は日テレ・東京ベレーザ、INAC神戸レオネッサ、三菱重工浦和レッズレディースというサッカースタイルの異なる3チームが優勝争いを展開し、ベレーザが初優勝を遂げました。MVPを受賞したベレーザの山本柚月選手がなでしこジャパン(日本女子代表)に初選出されたことは、WEリーグの選手たちにも大きな希望を与えたのではないのでしょうか。

世界を飛び回る忙しい期間になりましたが、有意義な時間になることができたので心地良い疲れではありませんでした。

会長の活動報告

2025年4月18日～5月22日(抜粋版)

4/20(日)

JFA・キリン ビッグスマイルフィールドin金沢 (金沢ゴーゴーカレースタジアム)



JFAとキリンホールディングスが復興支援を目的に協力して開催している本イベントも今回で6回目。雨がぱらつく中ではありましたが、0歳から87歳まで270名の参加者が一緒になってウォーキングフットボールを楽しむ笑顔あふれる一日となりました。

4/23(水)

サッカー外交推進議員連盟総会 (衆議院第一議員会館)



衆議院と参議院合わせて50名の国会議員の皆さまとの意見交換の場をいただきました。地元のJリーグ/WEリーグのクラブの熱烈なサポーターという方も多く、ご質問もたくさんいただき、サッカーが持つ力の大きさを感じる機会となりました。

4/24(木)

日本サッカーを応援する自治体連盟総会 (JFAハウス)



全国43の自治体の代表者が出席。JFAが行っているさまざまな事業についても紹介しました。部活動の地域展開においても各自治体との連携が重要となります。より良いコミュニケーションが取れる発展的な場にしていただきたいと思います。

4/30(水)

東京都渋谷区長表敬訪問(渋谷区役所)

5/3(土)

AFC 競技会委員会(サウジアラビア/ジッダ)

5/3(土)

AFCチャンピオンズリーグエリート2024/25決勝 アル・アハリ vs. 川崎フロンターレ(サウジアラビア/ジッダ)



昨シーズンに引き続きJリーグのクラブが決勝に進出したものの、悔しい敗戦となりました。アジアのクラブ競技会は大幅な改革が行われ、大会の価値もこれまで以上に高まっていくことが予想されますが、日本のクラブがアジアの頂点を獲得できるようサポートをしています。

5/8(木)

47FA訪問会議(熊本)



熊本県フットボールセンターを初訪問しました。とてもユニークな運営をされている施設です。5月16日・17日の「FAサポートプログラム施設活用セミナー」で同施設を訪問された47都道府県サッカー協会の方も多々ありますが、このような施設を増やしていけるよう皆さんと協力していければと考えています。

5/15(木)

第75回FIFA総会(パラグアイ/アスンシオン)



片道40時間の移動はハードでしたが、FIFA総会では他国の協会・連盟のトップと直接コミュニケーションを取ることができる重要な機会です。実際に今回も「SAMURAI BLUEと試合がしたい」という声を複数の協会・連盟の会長から直接いただきました。

国際舞台でも日本サッカーの存在感をより大きくできるよう精力的に動いていきます。

5/19(月)

2024-25 WEリーグアウォーズ(blue-ing!)



4シーズン目となったWEリーグは、日テレ・東京ヴェルディベレーザが初優勝を飾りました。女子サッカーの拡大のためにもWEリーグやなでしこリーグの発展は必要不可欠だと考えています。

2025-26シーズンは8月に開幕予定。今から楽しみです。

5/21(水)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

5/22(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)

理事会トピックス

2025年度第5回理事会が5月22日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式ウェブサイトをご参照ください。



決議事項

評議員推薦加盟団体規則を改正

加盟団体が評議員推薦加盟団体としての資格を喪失した場合、定款第17条の規定に基づく評議員会の解任決議または評議員本人の辞任によって当該評議員の資格が喪失します。このことを明確にするため、評議員推進加盟団体規則を改正することになりました。

技術委員会にゲーム環境部会を設置

育成年代のゲーム環境についてはこれまでユース育成部会で議論されてきましたが、暑熱対策や部活動の地域展開などの課題解決や各種施策の実行などよりスピード感をもって取り組むため、技術委員会にゲーム環境部会を新設することになりました。部会長には同委員会の蔵森紀昭副委員長が就任。また、同部会に育成年代別(U-18、U-15、U-12)のタスクフォースを設置し、地域や連盟からのメンバーも含め、それぞれの年代に特化した議論を行う体制を構築します。

ミャンマーサッカー連盟に義援金

ミャンマー中部で今年3月28日に大規模な地震が発生し、深刻な被害が発生しています。被災地域の一刻も早い復旧を願い、ガイドラインに基づいてミャンマーサッカー連盟に支援金としてUS\$20,000を寄付することが決まりました。

報告事項

FIFA女子ワールドカップの出場枠が拡大

第32回FIFAカOUNシル会議が5月9日、オンラインで開催され、FIFA女子ワールドカップの出場枠を2031年大会から現行の32から48に拡大することが決定しました。グループステージは48チームを4チームずつ12グループに分けて実施し、試合数は現行の64試合から104試合に増加、開催期間も1週間延長されます。これに伴い、FIFA女子ワールドカップ 2031™とFIFA女子ワールドカップ2035™のホスト要件概要も改正されました。

FIFA懲罰規程が改正

第75回FIFA総会が5月15日、パラグアイのアスンシオンで開催され、前回のFIFA総会で採択された反人種差別キャンペーンをより強化するためFIFA懲罰規程が改正されたことが報告されました。差別行為に対する罰金上限を500万スイスフラン(約8.7億円)に引き上げるなど処分が厳格化されています。

新たに1人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要なProライセンスについて、2023年からJFAコーチを務めている西嶋弘之氏が同ライセンスを取得しました。これで24年度の受講生20人のうち18人が認定され、認定者総数は599人となりました。

Information

落雷事故防止対策、熱中症対策への周知のお願い

近年の温暖化や環境変化の影響に伴い、年々全国での落雷件数や熱中症の救急搬送件数が増加しています。JFAはあらためて全国の指導者に落雷事故防止対策ガイドラインおよび熱中症対策ガイドラインを確認し、活動につなげていただくよう周知を強化しています。



サッカー活動中における
落雷事故防止対策に
ついて



熱中症対策ガイドライン

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会で 特別賞「SCO GROUP Award」を設置

第105回天皇杯に特別協賛いただいている株式会社SCOグループのご協力により、昨年に引き続きSCOグループ特別協賛賞「SCO GROUP Award」を設置します。前回大会では、優勝したヴィッセル神戸の酒井高徳選手が受賞。今大会も、期間中、最も記憶に残る感動的なプレーで多くのサッカーファミリーの輝く表情を生み出した選手を「SCO GROUP Award」として表彰します。※5/16発表

MIZUHO BLUE DREAMサッカー教室を JFA夢フィールドで開催

株式会社みずほフィナンシャルグループが、5月25日に高円宮記念JFA夢フィールドで「MIZUHO BLUE DREAMサッカー教室」を開催します。これはサッカー経験によらず「サッカーが好き・やってみたい」と思っている小学生年代に、この競技の素晴らしさ、ボールと触れ合うことの楽しさを感じてもらい、その様子をご家族にも感じていただくことで生涯スポーツとしてのサッカーの普及実現を目指すものです。当日はSAMURAI BLUEとなでしこジャパンの選手も参加し、JFAコーチ陣がプログラムを展開します。※5/20発表

「夢を叶えるプロジェクト」第一弾イベントを JFA夢フィールドで開催

JFAと株式会社クレディセゾンが、5月24日に「夢を叶えるプロジェクト」第一弾イベントをJFA夢フィールドで共同開催します。本プロジェクトは「夢を持ち、語り、挑戦する場」を創出することを目的に始動したもので、全国のファンから寄せられた「サッカーにまつわる夢」を実際にカタチにしていこう「価値共創プロジェクト」です。今回は900件の夢が寄せられ、その中から選ばれた参加者28名にSAMURAI BLUE、なでしこジャパンの選手が直接指導とトークセッションを実施。ピッチ上で一緒にプレーする夢の実現に加え、選手のウェアや備品準備からイベント中のサポートまで行う「マネージャー体験」も行います。※5/16発表

JFAクラウドファンディング「夏の挑戦資金」応援フェア始動

JFAは5月20日より、「夏の挑戦資金」応援フェアを株式会社CAMPFIREと共同運営するJFAクラウドファンディングで開始しました。「クラブの「やってみたい」をカタチに」というテーマの下、全国のサッカークラブを対象に、プロジェクトの立ち上げからページ作成、広報活動に至るまで、JFAとCAMPFIREの専任スタッフが万全の体制でサポートします。※5/20発表

「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」を国立競技場で初開催

JFAと株式会社ユニクロは6月21日、国立競技場で「JFAユニクロマルチスポーツキッズ」を開催します。スポーツを通じた子どもたちの健やかな成長を支援する新たな取り組みとして立ち上げるもので、小学1〜3年生を対象に、サッカー、野球、陸上、ラグビーの4種目を一日で体験できるマルチスポーツイベントとなります。「JFAユニクロサッカーキッズ」で培った20年にわたる経験を生かし、子どもたちの運動能力の向上はもちろん、挑戦する意欲やコミュニケーション力、リスペクト精神などを育むサポートをしていきます。※5/22発表

その他の主なニュース

- ・ JFA×KIRINキリンファミリーチャレンジカップ2025を5/31にJFA夢フィールドで開催 (4/18発表)
- ・ FIFA ビーチサッカーワールドカップセーシェル2025に波多野祐一審判員が選出 (4/18発表)
- ・ 天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会を株式会社SCOグループが特別協賛 (4/21発表)
- ・ 知的障がい者サッカー女子日本代表が6/1にエキシビションマッチ。国内で初めて日本代表ユニフォームを着用 (5/9発表)
- ・ 天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会 今大会もNHK・スカパー!での放送・配信が決定 (5/7発表)
- ・ 「審判交流プログラム」ドイツより審判員を招聘 (5/15発表)



JFA相談役 川淵三郎さんを マンマーク!

第10回は川淵三郎相談役をお招きしての対談。

JFAも普及に力を入れている「ウォーキングフットボール」をテーマに語り合います。

膝を突き合わせて話をする機会は、意外にも初めてだそうです。

みんなが笑顔になるスポーツ、 それがウォーキングフットボール

宮本 1993年5月15日に川淵さんがJリーグの開会宣言をしたとき、僕は高校2年生でした。自宅でテレビを観ていて感動しましたし、これで世界が変わるんだなと思いました。翌年にJユースカップでガンバ大阪ユースが優勝したときに、平塚の競技場で川淵さんから優勝トロフィーを受け取ったことを今も覚えてます。

川淵 僕が会長のときにツネは日本代表のキャプテンだったけど、会ってニコツとあいさつする程度だったよね。印象深かったのはやっぱりドイツでのワールドカップかな。(グループステージ敗退が決まって)ピッチに仰向けになって顔を覆ったまましばらく動かなかったヒデ(中田英寿)のところにはツネが近寄っていったんだよね。あのシーンが思い出されるよ。

宮本 ありがとうございます。さて、今日の対談のテーマはウォーキングフットボールになります。2011年にイングランドで行われた55歳以上の人たちの「健康のためのサッカー」が原点だと言われています。

川淵 ウォーキングフットボールの話が初めて僕のところに来たとき、誰もが楽しめるスポーツに違いないから日本中に広めてほしいと伝えたんだよね。働き方改革やAI(人工知能)の発達によってこれからもっと余暇の時間が増えてくるだろうし、健康寿命の延伸のためにもスポーツは大切。でも、運動嫌いな人って意外と多い。そういう意味でもウォーキングフットボールはそういった人たちにとってこのスポーツだよ。僕は、みんなが楽しめるスポーツを開発すべきだとずっと思っていて、日本トップリーグ連携機構でも各リーグにそう願っているんだよ。それぞれのリーグで新しいスポーツをつくり、一緒に広める努力をする。ウォーキングフットボールは、(日本で取り入れられて)9年ほどだと聞いているけど、着実に根付き始めている。すごくいいことだと思うよ。

宮本 僕も何度かやりましたが、思わず走りたくなるんですね。ディフェンダーなのでボールを奪いに行きたくなっちゃう(笑)。

川淵 そうなんだよ。サッカーをやっていた人は、ついついムキになる(笑)。でも危険なプレーがないのがウォーキングフットボールのいいところだからね。

宮本 小さい子どもからお年寄りまで、そして男女関係なく一緒に楽しめます。競技としての可能性を感じています。

川淵 幼稚園児と80代のおじいさん、おばあさんが一緒にできるっていうところが何とも素晴らしい。サッカーを全く知らない人でも楽しめるスポーツだから。僕もそうだけど、お年寄りが一番うれしいことと言えば、子どもたちが楽しんでいる姿を見ることなんだ。子どもが点を取ったらお年寄りがものすごく喜ぶんだよ。

宮本 能登半島地震の被災地でウォーキングフットボールをしたんですが、子どもたちもお年寄りも、それを見ているお母さんもみんな笑顔になるんで

すよね。厳しい状況の中、ちょっとでもリフレッシュにつながっている部分があればいいなって思っていました。

川淵 みんなが笑いながらプレーできる競技ってあんまりない。遊び感覚でやれるウォーキングフットボールは、これからの社会にもってこいだと思う。JFAとしても積極的に広めてほしいね。宮本会長、ぜひお願いします。

宮本 全国的にその機運が高まっていますし、まずはこの競技を知ってもらうことが大事だと思っています。アンバサダーみたいな人が増えていけば、もっともっと広まっていくんじゃないかと考えています。

川淵 世界大会もあると聞いたね。だけど、うまい人をえりすぐって、競うことに目が向くようになると、ウォーキングフットボール本来の値打ちがなくなってしまう。だからトップをつくることよりもピラミッドの底辺をどう増やしていくか、それが全てだね。どんな競技も(エリートの)ピラミッドは勝手に高くなっていくから。

宮本 川淵さんが言われたようにエリートのほうはこれまでの取り組みの成果もあって大きくなっています。今後は、生涯スポーツのピラミッドを大きくすることをより考えていく必要があるかなと思います。場所、機会の創出はJFAだけではできませんので47FAの皆さんと一緒にやっていかなければなりませんし、実際今そうしています。

川淵 あとはその日、その時に集まったメンバーによって、ルールを柔軟に決められる、コーディネーターみたいな人をどれだけ育てられるか、だね。走っちゃいけない、ボールを奪いに行っちゃいけない、ヘディングしちゃいけない、いろいろルールがあるけど、こうしたほうがいい、みたいな希望も入れながら、やりたい人がどんどん増えるようなルールにしていけばいいんじゃないかな。やっぱりフットボールで一番面白いのは点が入るところでしょ。だからたくさんゴールが入るようなルールであるほうが絶対いい。スポーツで大切なことは、達成感をどう得られるようにするかということだから。

宮本 「草の根」が全てという話は、川淵さんが人生を通して大事にされている考えなんだなって感じました。もちろん日本代表が強いことは大切ですが、もっと多くの子どもたちにサッカーをやってもらうにはどうすればいいかを考え続けなきゃいけないと、あらためて思いました。日々の学びとこの対談の学びが一致できて、本当に良かったです。本日はありがとうございました。

川淵三郎 (かわぶち・さぶろう)

1936(昭和11)年12月3日生まれ。大阪府高石市出身。早稲田大学卒業後、古河電気工業株式会社に入社。1958年日本代表に初選出、64年東京オリンピック出場。現役引退後は古河電工監督、日本代表監督を歴任。88年JFA理事、91年Jリーグ初代チェアマン、2002年JFA会長、08年同名誉会長。その後日本バスケットボール協会会長などを経て現在はJFA相談役、日本トップリーグ連携機構会長。2005年AFCアワード・ダイヤモンドオブアジア賞、06年FIFA功労賞、09年旭日重光章、15年文化功労者、23年文化勲章。

